

REPORT

「新型コロナウイルス感染症を絶対に持ち込まない会」紹介

2020年2月わが国で初めて新型コロナウイルス感染症が確認されてから、早いもので2年が経とうとしています。当法人では、いち早く新型コロナウイルス感染症に対応するため、幹部職員を中心とした新型コロナウイルス感染対策本部が設置されました。また、その翌週、中堅職員を中心とした“新型コロナウイルス感染症を絶対に持ち込まない会”が発足しました。参加職員は法人内の病院、老健、在宅部門に属する多職種にて構成されており、月1回、必要時は月2回～3回程度、会議を行い活動内容の検討や状況報告等を行っています。

今尚、猛威を振っているコロナウイルス。巷では宣言慣れや危機感の薄れが問題視されておりますが、我々医療従事者としては気を緩めることはできません。命を守る現場である我々の油断で患者さまや利用者さまを命の危険に晒すことは、二度とあってはならないと心に誓いこれからも活動を続けていきたいと思っております。

「オンライン交流会」でストレス解消！
～外出や思わぬ出来事によるストレスの解消に～

- オンライン交流会とは・・・
自宅に居ながらスマートフォンやパソコンのアプリを使って画面越しに、友人たちとゲームや食事等で交流する会です。
- オンライン交流会体験者の声 ～法人内～
✓ 思った以上に盛り上がって楽しめた
✓ 難しい手順や操作があるのかと想像しては、アプリで簡単に出来て楽しかった
✓ 短い時間を気にしないので気軽に出来た
✓ 普段はなかなか会えないので、定期的になる
etc...

● オンライン交流会用のアプリの紹介
①「たくのむ」公式サイト： <https://taknom.com/>
②「LINE電話」公式サイト： <https://line.me/ja/>
③「Skype」公式サイト： <https://www.skype.com/ja/>
④「Zoom」公式サイト： <https://zoom.us/>

※オンライン交流会の詳細なやり方は公式サイトや「オンライン交流会（or飲み会）」や「わが方」で検索するとたくさん出てきますのでご参照ください！
新型コロナウイルス感染症を絶対に持ち込まないための会

ゴールデンウィーク 家で、何しますか？ Vol.1

気分の落ち込み、自分磨き、ペットのお世話、一緒に遊ぶ、おうちカフェ

ゴールデンウィークで、何しますか？

つらう！ アイロニーズ、無人島で新生活

ゴールデンウィーク 家で、何しますか？ Vol.2

プラモデル作り、おしゃれ自家菜園、おそうじ

ベランダキャンプ、Netflix で映画鑑賞、ことわざ漢字カルタ

ゴールデンウィークで、何しますか？

◆当院へのアクセス

JRの場合

「南小倉駅」(日豊本線・日田彦山線)より片野方面へ徒歩10分

バスの場合

「木町二丁目」バス停(ファミリーユサ前)より小倉南区方面へ徒歩10分

都市高速の場合

「紫川IC」清水方面車線出口よりすぐ右側

カーナビでお越しの際は、

NAVI 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1と入力してください。



KR 医療法人 共和会

小倉リハビリテーション病院 / 介護老人保健施設 伸寿苑 / 共和会地域リハビリテーションセンター

TEL.093-581-0668 (代表) FAX.093-581-3319 (共通)

〒803-0861 福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1 <http://www.kyouwakai.net> 共和会 検索

公式SNSで情報配信中!



Careline

KYOUWAKAI Press ケアライン 2021 秋号 「外来リハビリテーション」患者さんのその人らしい暮らしの実現に向けて

○発行 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 連携広報部 井上 崇

Careline

KYOUWAKAI Press ケアライン

2021

秋号

特集 「外来リハビリテーション：患者さんのその人らしい暮らしの実現に向けて」

REPORT 「新型コロナウイルス感染症を絶対に持ち込まない会」紹介



秋の勝山公園(小倉北区)

心地よい秋風が吹き抜ける季節となりました。

新型コロナウイルス感染症が北九州市で発生して1年半、各機関におかれましてはその対応にご苦労なされていることと存じます。9月に入りようやく新規感染者の減少がみられ、末日には緊急事態宣言が解除となりました。正直ホッとしているところですが、一方で早くも12月からの第6波の話題が出始めています。長いトンネルの中に身を置いているようですが、緊張感を切らすことなく日々過ごして行かねばならないと思います。

さて、そうしたなか今回、ケアライン秋号では「外来リハビリテーション」を特集しました。

外来リハビリテーションは病院入院から在宅生活再開へのサポート、また若年障害者・難病疾患等に対しリハビリテーションを提供しながら社会参加を支援する等、幅広い役割を担っています。地域の各関係機関との連携をはかりながら、患者さんの「その人らしい暮らし」の実現に向け支援している活動をご覧ください。また、レポートとしてコロナ禍での予防活動について法人内の若いスタッフが独自の取り組みを行っている様子を紹介しました。コロナ禍における当法人の活動についてご一読頂ければ幸いです。

令和3年10月 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 連携広報部長 井上 崇

地域生活を支える外来リハビリテーション活動の紹介

外来リハビリテーションは、治療継続により改善が期待できると判断される方や若年障害者・難病疾患等に対し、リハビリテーションを提供しながら社会参加を支援しています。入院治療終了後の早期の在宅生活再開が促進される中で、入院チームからのバトンを引き継ぎ、リハビリテーションを提供しながら、医学的な管理や社会環境への適応へのサポートをする外来リハビリテーションの役割はより重要なものになってきていると感じています。今回は、患者さんの「自分らしい暮らし」の実現に向け支援している当院の外来リハビリ活動を紹介します。

外来リハの対象者と利用までの流れについて

2020年度、当院の外来リハビリテーションの新規利用開始者は157名でした。その内、51名(32.4%)の方が地域の医療機関からご紹介を頂きました。

2021年8月は、脳血管疾患100名(71.4%)、運動器疾患18名(12.9%)、進行性疾患22名(15.7%)の方が当院外来リハを利用しています。

利用の目的は退院直後の機能障害へのアプローチ、運転や趣味・復職などの社会参加支援、病状に合わせた福祉用具や介助方法の検討など多岐に渡り、各職種が専門性を活かしながら、支援しています。

新規紹介の窓口は2名の外来SWが担い、医師、看護、リハと連携し、早期に受診が行えるよう調整しています。初診当日は、リハ・SWが主治医診察に同席し治療方針と今後のスケジュールを計画しています。

対象者

- 脳血管疾患の方で発症から180日以内
- 運動器疾患の方で発症から150日以内
- 高次脳機能障害(失語症含む)
- 重度の頸髄損傷、頭部外傷・多部位外傷
- 回復リハビリテーション病棟退院後3ヵ月以内
- 腱板断裂・損傷術後
- 難病・障害児(者)リハビリテーション算定適応者
- 先天性又は進行性神経・筋疾患の方で診察にてリハビリテーションが必要と判断される方

利用までの流れ



※当院では、かかりつけ医は別でご依頼して頂くようお願いしております。

相談窓口：外来SW 電話093-581-0668(代表)/FAX093-581-0755(連携室直通)

外来リハの感染対策について

2020年度は新型コロナウイルス予防対策を行いながら、可能な限り通常に近い形での運営方法を模索せねばならない年となりました。

入院患者と共有していたリハビリテーション室の移動(右写真は現在の外来リハ室の様子)、受診の待合場所もレイアウトの変更(下写真)に取り組み、手続等の説明を行う場にはアクリル板を設置しました。コロナ禍でも、関係機関との連携は欠かせず、来院いただく際にはマスク・フェイスシールドの着用を依頼し、情報共有を行っています。また、今年度に入りWebを用いた職場面談も実施しています。



- 来院時にご本人・ご家族に必ず検温、消毒をお願いしています。
- スタッフはマスク・フェイスシールドを着用した上で、関わらせて頂いています。
- 受診やリハ前の待機場所は、距離が保てる環境を調整しています。
- 入院リハと外来リハではリハ室を分けて実施しています。
- リハ等での使用する物品は、使用毎に消毒を行います。
- 時間毎の換気を徹底しています。
- 初回利用時に当院での感染対策について説明しています。



外来リハの体制について



外来リハ部門では、Ns3名・PT6名・OT6名・ST2名・SW2名・DH1名を専従で配置しています。

主治医と定期的なカンファレンス、受診同席など実施しながら、情報を共有し支援計画を協議します。

外来リハ利用日には必ずリハ前に医師の診察を受け、健康状態を確認した上で外来リハを提供しています。外来専従スタッフは、年々拡充し、カンファレンスの機会を増やすなど多職種間での連携を深めています。しかしながら、地域生活を支え多様な目標を達成するには私たち外来スタッフの関りだけでは難しく、各関係機関との連携は欠かせません。

医師	12名(兼任)
看護師	3名(専従)
理学療法士	6名(専従)
作業療法士	6名(専従)
言語聴覚士	2名(専従)
社会福祉士	2名(専従)
歯科衛生士	1名(専従)

多様な目標に対するチャレンジには各関係機関との連携が欠かせない

外来リハでは運転再開をニーズとする方は多く、私たちは身体機能、高次脳の評価、生活状況を確認しながら支援を行っています。しかし、机上の検査だけでは判断が難しいこともあり、その際は産業医科大学病院や自動車学校へ評価依頼をしています。写真①の方は失語症の影響もあり、机上検査のみでは運転に関する総合的な評価が難しく、産業医科大学病院に依頼し自動車運転シミュレーターで評価を実施しました。その後、改造車(右片麻痺を考慮)を用いて自動車学校での運転評価を行い、安全性を確認し免許更新を行いました。現在は、改造車を用いて出社し、病前の趣味であった釣りも再開しています。2週に1回外来リハへ通われています。



写真① 改造車で職場や余暇活動に出かけている。趣味のルアー釣りを再開。40cmのマゴチを釣り、左手での記念撮影した写真

また発病を機に新たな仕事を探さねばならない状況で外来リハを利用される方もいらっしゃいます。私たちが障害の状況や仕事に関する考え方等を理解に努めながら就労支援を行います。長く勤められる適切な仕事探しには専門機関との連携を積極的に行っています。写真②の方は、北九州障害者しごとサポートセンターでの面談にST・SWで同席し、経過・障害像の説明を行いました。その後、リハ場面の見学も実施して頂き連携を深めていきました。発病から3年6ヶ月を経て、障害者での就労につながる事ができました。



写真② ST・SW同席での北九州障害者しごとサポートセンターへ相談

他の就労支援として、就労支援機関とも連携を行っています。現在は13名の外来リハ患者が利用(定着支援含む)しており、3ヶ月に1度来所での情報共有を行いながら支援しています。写真③は、就労移行支援スタッフがご本人と共に来院され、医師・OT・SWとともに情報共有をしている場面です。介護保険分野との連携では写真④のようにデイサービス先での歩行情報の確認やサービス担当者会議への参加などを積極的に行っています。

趣味支援活動や社会参加支援の一環として、2019年の北九州市障害者芸術祭へは外来患者の作品を7作品を出展しました。写真⑤は理事長賞を受賞した作品です。身体障害者福祉協会アートセンターとの連携も加速する出来事でした。多様な地域生活を支えるには、各関係機関との連携が欠かせず、これからも患者のニーズに即した支援ができるよう私たち自身が視野を広げられる専門、チーム作りにも励んでいきます。



写真③ 就労移行支援機関スタッフが来所しての状況把握、今後の検討



写真④ 利用中の通所先での歩行情報の確認



写真⑤ 理事長賞を受賞した梅川さんの絵画作品